

「戦時中の思い出」

堀江宣男

私は昭和9年生まれで、旧岩舟村に住んでいました。昭和16年、尋常じんじょう小学校が国民学校と名を変えたその年に、今で言う小学校1年生になりました。国民学校は国民の基礎的訓練をして、お国のため、天皇陛下のために身をささげ教育を重視していました。だから、私は勉強をほとんどしなかったと思います。軍事訓練や勤労奉仕ほうしばかりで、勉強の時間があっても自習が多かったです。夏の炎天下えんてんかの集会などでは、不動の姿勢で聞けと言われ、汗を拭ぬぐうだけでも怒られました。冬は10センチメートルもの霜柱しもぼしらができていても裸足はだしで立たされ、泣いている子もいました。

小学校3年生からは武道が始まりました。お兄さんのお下がりの大きい木刀ぼくとうでやらなくてはいけなかったので、とてもつらかった思い出があります。

疎開そかいの児童もやってきました。慣れるまではみんなよく泣いていましたし、疎開そかいの子に対するいじめもありました。野菜などの食糧しょくりょうを持って行って支援しえんをすると、疎開そかい児童はお礼として勤労奉仕ほうしをし

ました。もともと東京の子どもですから百^{ひゃくしゅう}姓仕事などやったこと
ない子ばかりでしたが、終戦後も1年くらいいたりして、みんな上
手になっていきました。

小学校4年生くらいになると、爆撃^{ばくげき}に耐^たえる訓練をしました。近
くの山林に逃げ込んで、伏^ふせをして、目と耳^{みみ}を塞^{ふさ}ぐのです。先生は、
「もしアメリカ兵が上陸してきたら、爆弾^{ばくだん}を抱^{かか}りて戦車に走ってい
くんだぞ」と教えていました。みんな望んで、「兵隊さんになりたい」
と言っていました。

5年生になると空襲^{くうしゅう}警報がよく鳴るようになり、そうすると家に
帰されます。1年生の子が泣いていたのを慰^{なぐさ}めながら帰ったことも
ありました。

昭和20年2月10日に太田市にあった中島飛行機が大爆撃^{ばくげき}に遭^あ
いました。三毳山^{みかもやま}の上を大編隊が通って行ったのをよく覚えていま
す。あとから知った事ですが、アメリカの飛行機は1万メートル上
空を飛んでいたのに、日本の高射砲^{こうしゃほう}は8000メートルまでしか飛
ばなかったそうです。いくら迎撃^{げいげき}しようと届^{とど}かなかったとは、いか
に力の差があったか、日本はただ爆撃^{ばくげき}されるのを待つしかなかった
んですね。

昭和20年4月1日にB29爆撃機が三毳山上空に爆弾をさく裂させました。音が夜半から翌日の昼近くまで続き、我が家のガラス窓が壊れるのではないかと思うほど、その振動と激しい音が続きました。それは、時限爆弾と称し、長時間いつ爆弾がさく裂するかわからないため、地元の消防団も近くに寄れないほどでした。その爆弾のさく裂の跡（大きなスリ鉢型）は現在も残っています。

岩舟山の見晴台には、昭和19～20年防空監視所があり、「敵機来襲」にそなえて、常時2人1組で監視を続けていました。敵機の形式、その数、その方向など電話にて報告していた様子でした。どうして南方海上にて日本は迎撃できないのか？子ども心にも歯痒い感じがしました。戦後知ったことですが、その力を失った戦況だったそうです。

40歳以下の男性は国土防衛のため徴用されてしまって、ほとんどいなかったため、女性がなんでもやらなくてはなりませんでした。飛行機も女子挺身隊がつくっていました。ベニヤ板でも飛行機をつくったようです。汽車の車掌も女性がやりました。一億火の玉という軍歌も作られました。

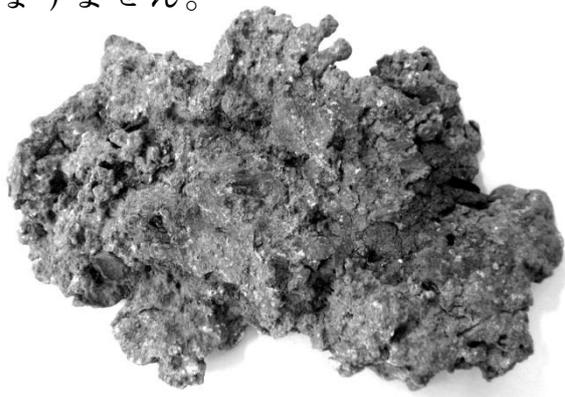
同じく昭和19～20年になると、国土防衛のため、中国に駐屯

していた拓部隊たくぶたいが岩舟国民学校へ移駐いちゅうすることになり、私達生徒は
屋外教室おくがいなど経験した思いがあります。

学校生活は戦況と共に厳しくなり、軍隊方式の教育となりました。
例えば、クラスの一人が若干の「行いが悪い」ことが生じると、ク
ラス全員が、教師から「ビンタ・ゲンコツ」をされたことは日常的
であり、生徒の中で耳の鼓膜こまくが破れたとか、ケガをしたとかよく覚
えています。

学童たちに先生は「日本は絶対に戦争に敗けない」又、「過去に敗
けたことがない」、と日常的に言われた上に「子どもたちはウソをつ
いてはいけない」と教育した後の敗戦国日本。逆に先生はウソをつ
いたのでは…と心揺れる「戸惑いとまど」を覚えている。

したがって、世の中学校教育が大切であり、戦争は絶対に避ける
こと、“世界はひとつ”この平和な日本の尊とうとさを伝え続けなければ
なりません。



昭和20年4月1日、三轟山へ
米国空軍B29爆撃機ばくげききくうしゅう空襲。
写真は、その時の爆弾ばくだんの破片。
縦10cm、横15cm、厚さ1.5cm
重さ1.3kg



みかもやま ちゃくだん ばくだんあとち かんばん
三毳山に着弾した爆弾跡地と看板

